国　　語

（解答番号 1 ～ 36 ）

※国語は「経済経営学部」「人文学部」および「健康医療学部」は必須。
「バイオ環境学部」は選択。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

Ⅰ

今から十年前、私がケンブリッジにいた時のことである。ある日、日本から履いていった靴が駄目になったので、大学の近くの靴屋に入って、あれこれと物色したあげく、足に合いそうな靴を見つけて椅子に座った。前にある足台に靴をのせて、傍の店員に「靴ベラを」とサイン[a]クした。

すると驚いたことに、店員は、そんなもの置いてないと言うではないか。そう言われてみると、日本の靴屋なら到る所に下げてある長い靴ベラが、どこにも見当らない。私がこの店には一つもないのかと聞くと、全くないと言う。靴屋に靴ベラがないのである。

こうなると私は、靴を買うことより、靴ベラがどうして靴屋にないのかの方が気になり出した。それではどこにあるのか、どこで買えるのかと尋ねると、彼はもう一人の店員の所に行って、二人でしばらく話をしていた。やがて戻って来た店員は、多分スーパーに行けば買えるかも知れないが、と言う。

私は店を出るなり、その足で二、三軒、ほかの靴屋を廻(まわ)ってみた。もちろん目的は靴ベラを置いてあるか、売っているかを調べることである。やはりどの靴屋にも、靴ベラはなかった。その後になって、靴ベラがないのは靴屋だけでなく、イギリスのホテルの部屋にも置いてないことを発見した。日本なら必ずある。そしてこの習慣は、かつて英領だったオーストラリアとニュージーランドのホテルにも、そのまま伝わっていることを知り、伝統の力の強さに今更のように驚いたのである。（最近は日本人観光客の激増により、靴ベラを置くホテルも出てきた由である。）

Ⅱ

さて、この事実とイギリス人理解とは、一体どのように繋(つな)がるのだろうか。それは究極的にはイギリス人が、足という人間なら誰でも持っている身体部分を、実は恥部の一種と考えている不思議な民族だということに結びつくのである。

今では日本人も靴を履く。ちょっと見ると、外出するとき靴を履くという習慣の点で、日英両国の間にこれといった目立った差異はない。しかし一日中、そして一生の間という長い期間で考えると、そこには大変な相違があるのである。

簡単に言えば、平均的な日本人は、機会あれば靴を脱ぐことを考えている。事務所や研究室といった勤め先に来ると、通勤に履いて来た靴を脱いで、サンダルや草履にはき替える人は意外に多い。少し長時間の汽車旅行でも、靴を脱いでしまう。そのため新幹線の車両などには、足のせが表と裏で靴用と靴下用に分かれている。

飛行機で海外に行くとき、ほとんどの日本人は靴を脱いでしまう。世界で乗客に簡易スリッパを提供したのは、たしか日航が最初で、今では多くの外国航空会社がそれを見習っている。

日本人にとって、靴とは単なる履物にすぎない。そして履物とは、足を土や石、汚いものから守り保護する道具であって、だからその必要のない場所、つまり家の中や敷物のある飛行機その他の乗物では、脱ぐことが当然なのである。

また長い間、下駄や草履のような足全体を覆うことのない、したがって足を締めつけることのない楽な履物を使用して来た日本人は、明治以後、靴というb＿＿＿キュウクツな外国の履物に馴れるのが大変だった。しかも日本は湿気の多い風土だから、足が蒸れたり水虫になったりする。そこで日本人はなるべく足にア＿＿＿緊迫感を与えない、緩めの靴を履くという文化を身につけることになった。

Ⅲ

この二つの理由でA＿＿＿日本人は、靴を脱げる場所ではすぐ脱ぐのである。今でも地方の食堂やソバ屋に入ると、テーブルが空いていても靴を脱いで座敷に上がりたがる人が多い。そして病院、学校、公民館などで外来者に靴を脱がせてスリッパに履き替えさせる所は決して少なくない。

日本人はこのように、一日のうち靴を履いたり脱いだりする機会が多い上、もともと緩めの靴を履いているから、靴ベラが必要になり、また靴ベラの助けぐらいで履けるのである。

見ていると、中には靴ベラも使わず、足を靴に入れてガタガタと二、三度、床を踏みつけて履いてしまう人もいる。日本人によく踵の部分を踏み潰した靴を履いている人を見かけるのも、緩い靴をブc＿＿＿ショウして靴ベラを使わずに、無理して履くからである。また日本人の大人が、登山靴やスキー靴は別として、一般に編上げ式の靴を好まないのも、簡単に脱げないという理由による。

Ⅳ

B イギリス人の靴の履き方は全く違う。彼等は足にきっちりした靴を履く。しかも一日中どこでも絶対に脱がない。履くときは靴紐(くつひも)を緩め靴を開いて足を入れ、再び紐を固く締める。靴を買う時もこのようにする。だから靴ベラの登場する場がほとんどないのである。オフィスでも店でも、サンダルをつっかけて、などという姿は絶対に見ることが出来ない。

家に帰っても、イギリス人は靴を履いている。外出用の靴を室内ばきに替える人でも、踵のあるものを履いて、日本のような足先だけを覆うスリッパは使わない。そして、靴を脱ぐのは寝室だけである。

長年月にわたって、このようにきつい靴を一日中履き続けるものだから、イギリス人は年をとると、足の骨の変形からくるいろいろな病気を患う人が多くなる。そこで足病医(podi-atrist)などという、日本人には耳なれない専門医が繁盛することになる。ケンブリッジの小さな町にも、何軒かの足病医があった。

日本でも最近、ファッション・モデルの若い女性の間に、外反拇趾(がいはんぼし)という骨の変形による、非常に痛い足の病気が出はじめたが、これは細い靴を無理していつも履くことから来る職業病である。イギリスでは普通の人が、これに罹(かか)ってしまうのだ。

見たところ同じような靴を履いている日本人と英国人でも、靴の文化にはこれだけの違いが隠れている。日本人が外国で靴を買うとき、足の幅が広すぎて大抵の靴が合わないのも、日本人の足は変形していないためである。

Ⅴ

私がこのように靴ベラの話から靴の履き方の違い、そして結果としての足の変形の有無などに言及する目的は、実は靴そのものの比較文化論ではない。靴を履く足が問題の焦点なのであって、足をどのような身体部位と考えるかという点で、日英両民族の間には驚くべき相違があることを指摘したいのである。これまで述べた靴をめぐる文化のさまざまな違いは、単なる結果であって、C原因は足そのものにあるのだ。

私の考えでは、日本人にとって足とは、特別な深い意味を持つ身体部位ではない。もちろん顔や手に比べれば、格が下がることは確かだが、足を公衆の面前に露出すること、人前で裸足(はだし)でい

ることそれ自体は、時と場所にもよるが、別に悪いことでも恥ずかしいことでもない。夏の夕方、浴衣(ゆかた)に素足で外を歩くなど、立派な日本の伝統的風俗の一つである。

ところがイギリス人にとっては、素足はどんなことがあっても、他人に見せてはいけない身体部位なのである。その意味では恥部の一種だと言っても差支えない。素足は寝室だけに許される恰好(かっこう)なのである。そこで、人前で靴を脱ぐことは、寝室の行為を連想させるほどの強烈な印象を他人に与えてしまう。それだからこそ、日本に来たイギリス人が日本人の家に上がる時、靴を脱がされることに強いためらいと抵抗感(イ)を示すのである。

かつての英領植民地で、イスラム寺院など絶対に靴を脱がなければ大変な民衆の怒りを買う場所で、イギリス人がしばしば問題を起こしたのも、別にキリスト教以外の宗教をブジョク(d)するつもりというよりも、人前で靴を脱ぐことに耐えられない文化的理由が大きかったのだと思う。

Ⅵ

D このイギリス人の足に対する考えとよく似た心情が、面白いことに日本の隣りの中国に見られる。もともと儒教は肉体を公然と露出することを嫌う文化であるが、特に足はいけない。戦前、中国に置かれた日本の大使館や領事館などに勤める人、特に女性は、家の中でも中国人の使用人のいる所では、素足を見せないよう注意を受けていた。女の人が男に素足を見せることは、思わぬ性的挑発になるからである。古い中国に発達した纏足(てんそく)（成長期の女性の足を布で固く縛(しば)り、骨を変形させて発育を止め、足を小さくする風俗）も、中国人が足を性的含意のある身体部位と考える文化をもっていたことが、その一因であると私は考えている。

Ⅶ

さて、話が少しイギリス文化から逸(そ)れたが、イギリス人を理解する目的をもって、英語を学び、いろいろと英語の本を読んだ人で、このイギリス人の足に対する特別な感情に、これまで気がついた日本人がどれだけいるだろうか。

もちろん英国人が靴を脱ぎたがらない人種だくらいのことは、多くの人が知っているだろう。だが、これを単なる習慣の違いと簡単に片付けて、日本に来たら（　E　）と、彼等に靴を脱ぐことを期待するには、余りに根の深い、基本的な文化の刻印(ウ)だということまで理解している

人は少ないと思う。

人間の文化にはエ根の浅い、簡単に変えることの出来る部分と、いつまでも残る、いわば第二の本能ともいえるようなものがあって、素足に対するイギリス人の感情は、後者の一つなのである。彼等にとって靴の大きな役目の一つは、恥ずかしい足という身体部位を、他者の目から掩(おお)いかくすことなのである。

Ⅷ

外国の文化、それも外国人の考え方、そして風俗・習慣の目に見えない部分というものは、以上述べたように、部外者にはたとえその国を訪れても、いや長年住んでさえも、偶然の幸運に恵まれないと、なかなか理解の糸口が見つからないものなのである。

しかも常にどこか違うはずだ、何かが隠れているに違いない、という緊張と問題意識を持っていないと、せっかく見えた切口も見過してしまう。文献の形で整理された資料には出てこない基本部分が摑(つか)めないと、すべて程度の違い、個人差の問題に解消されてしまいかねない。要するに、日本にも外国にもいろいろな人、いろいろな地方差があって、オ一概には言えないよといった、平板な、トウケイ的認識に終わってしまう。

しかもこのような文化の側面は、肝心のその国の人にさえ意識されていないことが多いだけに、異文化理解など、まさに言うは易く、行ない難いものである。私が繰返し、カ本腰を入れてその気で研究をしなければ、英語の本を少し読んだくらいでイギリス人など分かるはずがないと言うのも、これでいくらかは理解していただけたのではないかと思う。

（鈴木孝夫『日本語と外国語』より）

問一　傍線部a～eに相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、1～5。

a　サイソク　1

① サイリョウ労働制
② 次号ケイサイ予定の原稿
③ イベントのキョウサイ者
④ スマホの即時ケッサイ
⑤ サイジキにのる行事

b　キュウクツ　2

① フキュウの名作を見る
② キュウリョウ地を歩く
③ キュウキュウ車両が通る
④ キュウダイ点をもらえた
⑤ 財政がキュウボウする

c　ブショウ　3

① より一層ショウジン致します
② あの人は映画界のキョショウだ
③ フショウながら私が務めます
④ 先生は学生たちのショウケイの的だ
⑤ 百貨店のガイショウ部門に配属された

d　ブジョク　4

① ブソウを解く
② ブベツ的な視線
③ エンブ場で芝居を見る
④ 完全ブアイ制の職種
⑤ アンブでも見落とすな

e　トウケイ　5

① 結婚をケイキに転職した
② 部品のケイリョウ化を図る
③ 神のケイジを受ける
④ ケイリャクをめぐらす
⑤ ケイジが続いてうれしい

問二　傍線部ア～オの本文中における意味は何ですか。最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、6～10。

ア　緊迫感　6

① 油断のならない感じ
② 物事の期限が迫ってくる感じ
③ 締めつけられ焦っている感じ
④ 締めつけられ緊張している感じ
⑤ 今にも何かが起こりそうな感じ

イ　抵抗感　7

① 反発したい気持ち
② 逃げ出したい気持ち
③ 攻撃したい気持ち
④ 不安な気持ち
⑤ 張り合いたい気持ち

ウ　刻印　8

① 刻み付けられて拭い去れない罪のあかし
② 絶対に間違いの無いことを証明するもの
③ 刻み付けられて動かしようのないもの
④ その国家を表す代表的なもの
⑤ 深く刻み付けられはっきりと見えるもの

エ　根の浅い　9

① 根気がなく、すぐにやめてしまう
② 思い入れがあまり強くない
③ 考えが浅く、あさはかである
④ 同じ考え方を持っている人が多い
⑤ 原因がとても複雑で、取り除けない

オ　一概に　10

① 一方的に
② 一回で
③ 一つだけに
④ ひといきに
⑤ ひとまとめに

問三　傍線部A「日本人は、靴を脱げる場所ではすぐ脱ぐ」の理由を説明したものとして適当なものを、次の①～⑦のうちから**二つ**選びなさい。解答番号は、11・12（順不同）。

① 靴は足を外の汚いものから保護するための道具であるから
② 世界中で簡易スリッパを用意するようになっているから
③ 足を締め付けることのない、緩めの靴を履く文化を身につけたから
④ 一日のうち靴を履いたり脱いだりする機会が多いから
⑤ 靴を履いていると足の骨の変形から来る様々な病気になってしまうから
⑥ 足は外に出しておくべきであるという考えを持っているから
⑦ 靴を履いていると足が蒸れて水虫になってしまうから

（次頁に続きます）

問四　傍線部B「イギリス人の靴の履き方は全く違う」とあるが、日本人とイギリス人の靴の履き方を説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、 13 。

① 日本人は靴ベラを使って靴を履き、登山靴やスキー靴も同じように履いてしまうが、イギリス人は靴紐を緩め靴を開いて足を入れ、再び紐を固く締めるので、靴ベラの登場する場がない。

② 日本人は緩い靴を履いているので、中には靴ベラも使わずに靴を履いてしまう人もいるが、イギリス人はきっちりした靴を履くので、靴ベラなしに靴を履くことはない。

③ 日本人は家の中でも靴を履いたり脱いだりする機会が多いので緩い靴を履いているが、イギリス人は家以外で靴を脱ぐ機会がないため、足にきっちりした靴を履いている。

④ 日本人は室内に入ると大抵靴を脱いでスリッパなどに履き替えてしまうが、イギリス人は就寝時以外に靴を脱ぐことはなく、家に帰っても日本のようなスリッパは使わない。

⑤ 日本人はもともと緩めの靴を履いているので靴ベラが必要になるが、イギリス人はきつい靴を履くので靴ベラが無くてもすぐに靴を履くことが出来る。

問五　傍線部C「原因は足そのものにあるのだ」とあるが、これについての筆者の考えとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、 14 。

① 日本には夏の夕方、浴衣に素足で外を歩く伝統的風俗があるが、イギリスにはそのようなものがないので、イギリス人は公衆の面前に足を露出することに慣れておらず、外で靴を脱ぐことをためらってしまう。

② 日本人は足を人に見られても恥ずかしくなく、靴を脱げる場所ではすぐ脱ぐが、イギリス人にとって足は他人に見せられない恥部の一種なので、イスラム寺院のような場所であっても人前で靴を脱ぐことに強いためらいがある。

③ 日本人にとって足とは特別な深い意味を持つ身体部位ではないため、足を公衆の面前に露出することにためらいはないが、イギリス人にとって足は顔や手に匹敵するほど格の高い身体部位で

あるため、人に見せることは絶対に出来ない。

④　日本人にとって足とは、顔や手と同じくらいの格の身体部位であるため、浴衣に素足で外を歩くことも格の低い風俗ではないが、イギリス人にとっては素足はどんなことがあっても他人に見せてはいけない身体部位なのである。

⑤　日本では足を公衆の面前に露出することは、時によっては悪いことや恥ずかしいこととみなされてしまうため、素足で外を歩くことには注意が必要であるが、イギリスでも素足で外を歩くことは恥ずかしいこととされている。

問六　傍線部D「このイギリス人の足に対する考えとよく似た心情が、面白いことに日本の隣りの中国に見られる」とあるが、各国の足に対する考え方と行動を述べたものとして、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、**15**。

①　イスラム寺院などは絶対に靴を脱がなければ民衆の怒りを買う場所だが、中国人は人前で靴を脱ぐことに耐えられない文化的理由のために、そこでしばしば問題を起こした。

②　中国人の足に対する考えは日本人のそれとよく似ていたため、イギリス人は中国人の家に上がる時に強いためらいを示した。

③　中国は日本の隣りの国であるが、足に対する心情はイギリスとよく似ていたため、戦前中国の大使館に勤めた日本人女性は、中国人には素足を見せないよう注意を受けた。

④　イギリス人は人前で靴を脱ぐことに耐えられない文化的理由のために、中国を訪れた際、イスラム寺院でしばしば問題を起こしてしまった。

⑤　中国は日本の隣りの国であるが、足に対する心情はイギリスとよく似ていたため、中国に置かれた日本の大使館や領事館には靴べラがない。

（次頁に続きます）

問七（　E　）に入るⅰ最も適当な慣用句と、ⅱその文章中での意味を、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、ⅰが 16 、ⅱが 17 （完全解答）。

16

ⅰ　慣用句

① 長い物には巻かれろ　② 人のふり見て我がふり直せ　③ 門に入らば笠を脱げ

④ 郷に入っては郷に従え　⑤ 虎穴に入らずんば虎子を得ず

17

ⅱ　意味

① 他人の家を訪れた時は、笠を脱いで会釈するのが礼儀である。

② 他人の行動の善悪を見て、自分の行為を反省し改めなければならない。

③ 権力や勢力には反抗せず、がまんして従っていた方がよい。

④ 大きな成功を手に入れたいのなら、大きな危険を冒さなければならない。

⑤ その土地で過ごすには、そこの人の習慣を真似るのがよい。

問八　傍線部F「本腰を入れてその気で研究をしなければ、英語の本を少し読んだくらいでイギリス人など分かるはずがない」と筆者が言う理由を説明したものとして、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、 18 。

① 英語を学び、英語の本を読んだ人であっても、イギリスを訪れ、長年住んでみないとイギリス人を理解することが出来ないから

② 外国の風俗などの目に見えない部分というものは、部外者にはたとえその国を訪れても、偶然の幸運に恵まれないと、理解の糸口に出会うことが出来ないから

③ 外国の文化や外国人の考え方は、その国を訪れ、長年住むだけでなく、文献の形で整理された基本部分を摑む必要があるから

④ 常に緊張と問題意識を持っていないと、日本にも外国にもいろいろな人、いろいろな地方差があることを見過ごしてしまうから

⑤ 外国の文化を理解するためには、常に緊張と問題意識を持って切口を探し、さらにその国の文化の基本部分を摑んでいる必要があるから

問九　本文中の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、[19]。

① 足をどのような身体部位と考えるかという点で、日本とイギリスの間には驚くべき相違があり、それが靴をめぐる文化の違いの要因になっている。

② イギリス人にはキリスト教徒が多いため、イスラム寺院で靴を脱がなければならないと言われても脱ぐことが出来なかった。

③ イギリス人はきつい靴を一日中履き続けるため、足の骨の変形から来る病気を患う人が多いが、日本でも最近若い女性たちに細い靴が流行し同じ病気が増えている。

④ イギリス人にとって靴の大きな役目は、恥ずかしい足という身体部分を他者の目からかくすことであるため、彼らは靴ベラを使って靴を履くことをためらうのである。

⑤ 今から十年前、筆者はイギリスの靴屋やホテルに靴ベラがないだけでなく、オーストラリアとニュージーランドの靴屋にも靴ベラが無いことを発見した。

問十　この文章の[Ⅰ]～[Ⅷ]には各部の内容を表す見出しが入ります。このうち[Ⅴ]と[Ⅷ]に入る見出しを、次の①～⑧のうちから一つずつ選びなさい。解答番号は、[Ⅴ]が[20]、[Ⅷ]が[21]。

① 靴ベラの利用

② 一日中脱がない英国人

③ 靴を脱ぎたがる日本人

④ 文化の刻印

⑤ 靴屋に靴ベラがない！

⑥ 素足は恥部

⑦ 問題意識が必要

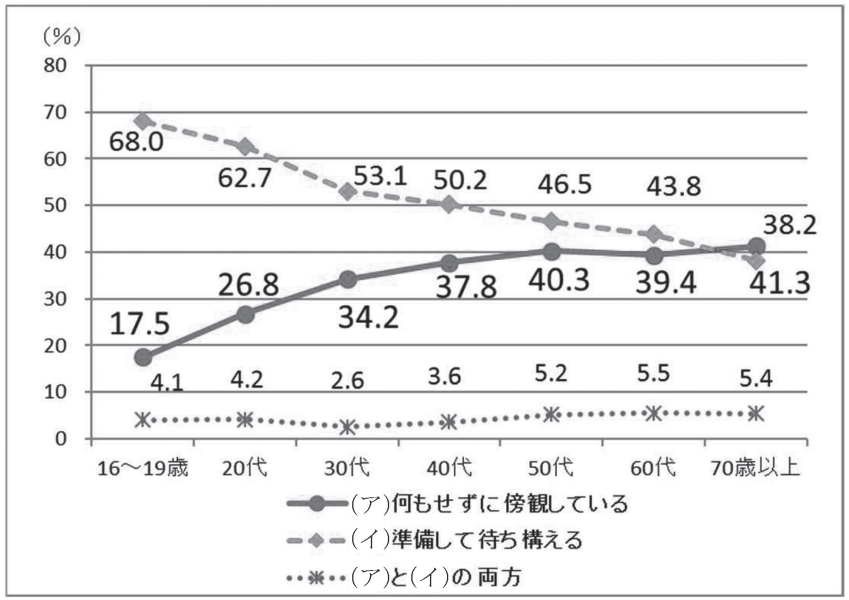
⑧ 中国人と足

二

次の問一～問三に答えなさい。

問一　表及びグラフを見て、次の文章の（Ⅰ）～（Ⅴ）に入るものとして最も適切なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、22～26。

手をこまねく	(%)
(ア) 何もせずに傍観している	37.2
(イ) 準備して待ち構える	47.4
(ア) と (イ) の両方	4.6
(ア)、(イ) とは、全く別の意味	3.3
分からない	7.5



(https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/92531901_01.pdf)
『令和元年度「国語に関する世論調査」の結果の概要』(文化庁) 参照

「手をこまねく」という言葉の意味は、「(ア) 何もせずに傍観している」と「(イ) 準備して待ち構える」のどちらだと思うかという質問の回答結果を、右の表（全体の割合）及びグラフ（年代別の割合）で示した。「手をこまねく」という言葉の、辞書等で本来の意味とされてきたのは「（　Ⅰ　）」である。今回の調査結果では「（　Ⅱ　）」を選択した人の割合が最も大きかった。年代別に見ると（　Ⅲ　）、中でも、（　Ⅳ　）では（ア）を選択した人の割合と（イ）を選択した人との割合に30ポイント以上の差がある。このままで展開すれば、今後（　Ⅴ　）。

22

Ⅰ

① （ア）何もせずに傍観している
② （イ）準備して待ち構える
③ （ア）と（イ）の両方
④ 手先を上下に動かして合図する
⑤ 学問や技芸の初歩を教える

23

Ⅱ

① （ア）何もせずに傍観している
② （イ）準備して待ち構える
③ （ア）と（イ）の両方
④ （ア）、（イ）とは、まったく別の意味
⑤ 無回答

24

Ⅲ

① 年齢が高いほど本来の意味とは違うアを選ぶ傾向が強く
② 年齢が高いほど本来の意味とは違うイを選ぶ傾向が強く
③ 年齢が低いほど本来の意味とは違うアを選ぶ傾向が強く
④ 年齢が低いほど本来の意味とは違うイを選ぶ傾向が強く
⑤ 年齢が高いほどアとイの両方を選ぶ傾向が強く

25

Ⅳ

① 20代以下　② 30代以下　③ 40代以下　④ 50代以下　⑤ 60代以下

（次頁に続きます）

26 V

① 本来の意味である（ア）の意味での認識が広がっていく可能性が高いだろう
② 本来の意味である（イ）の意味での認識が広がっていく可能性が高いだろう
③ ますます本来の意味での認識が広がっていく可能性が高いだろう
④ ますます本来とは違う意味での認識が広がる可能性が高いだろう
⑤ 徐々に使われなくなって数年のうちには死語になる可能性が高いだろう

問二 次のA～Eの四字熟語の□に入る漢字として正しいものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、27～31。

27 A 刻苦勉□
① 令 ② 励 ③ 麗 ④ 霊 ⑤ 例

28 B □刀直入
① 短 ② 探 ③ 担 ④ 単 ⑤ 嘆

29 C 言語□断
① 動 ② 導 ③ 胴 ④ 道 ⑤ 同

30 D 傍若□人
① 舞 ② 武 ③ 歩 ④ 不 ⑤ 無

31 E 起死□生
① 解 ② 会 ③ 回 ④ 改 ⑤ 快

問三 次のコラムは、▼を付した最初と最後の段落以外は順序が正しくありません。これを読んで、後の問いに答えなさい。

▶　めくってもめくってもページが黄色のタンポポで埋め尽くされている。台紙に25輪ずつ貼られた花は計８６６４輪。大阪市のビルの一室に過去２年分のタンポポが保管されている。

①　植物学者の牧野富太郎は明治後期、セイヨウタンポポが日本中に広がると予言した。的中はしたが、さすがの牧野博士も、子どもからお年寄りまでこれほど大勢が調査を楽しむ時代がくるとは予想しなかっただろう。

②　セイヨウタンポポなど外来種と、カンサイタンポポなど在来種の「勢力図」を作るためだ。半世紀前、「自然破壊が進むと外来種が増える」と考えた学生たちが調査を始めた。５年おきに市民から花を摘んで送ってもらい、地図に採取地点を記した。

③　調査は西日本の府県に広がる。驚くことに、大阪府では外来種が２００５年をピークに減り始めた。「在来種の盛り返しは、バブルが去り、都市部にも里山的な環境が戻った証拠でしょう」。近年は「雑種」も増えており、一輪一輪の花粉を顕微鏡で分類する。

④　高校で生物を教える木村進さん（67）は大学生以来ずっと調査の牽引役。「造成地に強い外来種は駐車場や道路脇に、在来種はあぜ道や雑木林に生えます」。見分け方は簡単で、外来種は花の下の緑色の部分が「ひげ」のように反り返っている。

▶　つい先日、アスファルトの間に１輪を見つけた。教わった通り花の裏をのぞくと、立派な「ひげ」が。外来種らしい。まぶしい黄色が春の訪れを告げていた。

（朝日新聞２０２１年３月18日　承認番号（22-1277）※朝日新聞社に無断で転載することを禁止する）

（１）それぞれの段落を正しく並べると、順序はどうなりますか。それぞれの位置に入る最も適当なものを、①～④のうちから一つずつ選びなさい。（完全解答）解答番号は、32 ～ 35 。

▶最初の段落―（ 32 ）―（ 33 ）―（ 34 ）―（ 35 ）―▶最後の段落

（次頁に続きます）

（2）順序を正したコラムのタイトルとして最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選びなさい。

解答番号は、36。

① タンポポの勢力図

② セイヨウタンポポの勝利

③ 市民参加の植生調査

④ 在来種の知らせる危機

⑤ 戻ってきた日本の自然

以上で問題は終わりです。